

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和4年

9

No.1414

ひなたぼこ商店



CLOSE UP /

人とつながる
健康生活

連載

キラリスポーツ

「剣道」

たかつき歴史アラカルト

「市内の古代寺院」

週末どこ行く？何食べる？

おでかけDAYS

「樫田エリア」

特集

未来をつくる

クラウドファンディング

1. クラウドファンディングの支援が未来へ!



田園が生んだ米粉で、地域の稲作文化を盛り上げたい。

祖父から田んぼを、父からベーカリーを継いだ高谷直樹さんが、地元・清水地域の稲作文化を残したいと、「米粉広め隊」としてクラウドファンディング(クラファン)を実施。リターンの田植え体験が好評で、「稲を育てる大変さを実感してもらえたのでは」と高谷さん。集まった支援金は田んぼの維持費などに活用。「この景色を10年後も守りたい」という願いを支えます。

宮之川原の「高谷ベーカリー」を継いだ高谷さんは、十数年前に米粉パンの存在を耳にし、「米ならうちにある!」と着眼。今では8割米粉を使った菓子パンと惣菜パンを10種類以上販売。



平成30年に誕生した「清水っ粉」。その後、たこ焼き粉、唐揚げ粉とバリエーションも豊富に。

米粉広め隊

地元でとれた米を使った米粉をもっと広めようとめんも開発した高谷さん。高槻市内ではこのめんを使うレストランや「清水っ粉」を使う洋菓子店も増えています。「高谷ベーカリー」前には今年、めん、粉の自動販売機も設置!



壽酒造

今年創醸200年の「國乃長」でおなじみの酒蔵。大吟醸からにごり酒までそろう清酒のほか、「地ビール元年」と言われる平成7年に、全国で9番目、大阪で最初に地ビールの製造を開始しました。★富田町3-26-12



「蔵の建築年は不明ですが、おそらく明治か大正時代に建てられたもの」と橋本さん。



大阪の酒蔵が一致団結してクラウドファンディング。

「コロナで打撃だったのは、やはり営業をやめられた小売店がございましたこと」と社長の石井清祐さん。窮地にあった清鶴酒造も「大阪日本酒の陣」に参加。「大阪の酒蔵同士はわりと仲がいい」と、一致団結して売り上げを伸ばしたそう。脈々と受け継がれてきた富田酒の未来の力になったに違いありません。

春から熟成させ晩秋に蔵出しさせる純米酒「ひやおろし」が蔵を代表する清酒。「米の旨みがしっかりしていて日頃飲みに適しています」と石井さん。



「機が熱せば、蔵単独のクラファンも」と石井さん。



清鶴酒造

江戸時代末期の安政3年創醸。良質の酒米と阿武山山系の清水で醸された「摂州富田酒」として、純米酒を中心に製造。酒蔵に併設する販売所では直接お酒を買うことができ、地元の人に好評。★富田町6-5-3



清酒のほか、原料の一部に清酒を使った「貴醸GOLD」などのクラフトビール、大阪で唯一つくられている地焼酎も製造しています。

新型コロナで売り上げ減になった清酒とビールを守るために。

新型コロナの影響で売り上げが減った大阪府内の酒蔵を救おうと立ち上げたクラファン「大阪日本酒の陣」に参加。日本酒の売り上げ増が支援されたほか、「うちはクラフトビールもあるから」と橋本憲治社長が言うように、クラフトビールを自宅サーバーで楽しむ「DREAM BEER」のクラファンにも参画していました。

2. 人の暮らしや、まちづくりにも寄り添って。

「生きる上で大切なものを扱う商店」を地域につくりたい！

介護事業に10年以上携わる代表の中村亜希子さんが、「子どもたちが顔を合わせてコミュニケーションを取れる場所を」と昨年駄菓子屋を開店。今年はクラファンにもトライし目標額を達成。「店のことを知っていただけたのもよかった」と中村さん。店の想いへの共感が多くの支持を得たようです。



ひなたぼっこ商店

街でよく声をかけられるという“ランドマーク店長”河野久美子さん（写真下）をはじめ短時間勤務のスタッフが多数。店の2階では学び舎や塾を開き、地域の人のコミュニケーションの場になっています。浦堂2-21-1



取材時もひっきりなしに小さなお客様が来店。支援金によって店にはエアコンや冷蔵庫などを導入。近々コロッケを揚げるフライヤーも購入予定。

「困った人が、誰でもいつでも気軽に来れる場所にしたい」と中村さん。



地域交流センター あすなろ

日吉台や天神など高槻北東地域の高齢者が孤立しない居場所づくりにと7年前に設立。気楽に集えて多様なつながりを持ち、社会参加と交流ができる場所を目指します。

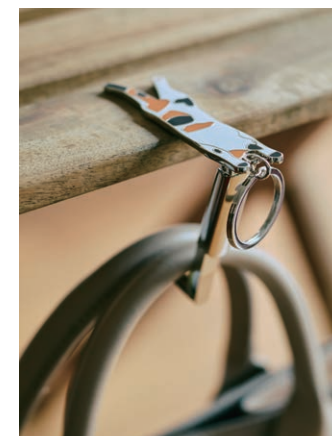
センターで行われる脳トレ教室やカレンダーづくり、ミニセミナーなどの各事業の開催資金にクラファンは貢献。高齢者だけでなく子ども向けのイベントも開催しています。

高齢者が孤立しない居場所づくりを目的に、クラファンの力を借りて。

「慣れないことで苦勞もありましたが、やってみてよかったです」と、「地域交流センターあすなろ」を運営するNPO高槻ライフケア協会理事長の石名田真人さん。センターを維持するために、令和2年にクラファンにトライし、パソコンを使うシステムに悪戦苦闘。しかし、見事目標額を超えた時には、「達成感がありました」。



こんな商品もクラウドファンディングにより「高槻」で生まれました。



春日町にある会社が生み出した猫型のバッグハンガー。

新型コロナの接触対策として思いついたバッグハンガー「nyanger」。猫モチーフのアイデアは、代表の小坂雄治さんが中2の時に拾った白黒の猫から。「クラファンは、商品開発をしながらマーケティングもできるととてもいいシステム」と小坂さん。

nyanger

高槻市春日町にあるGRACIA JAPANでつくられている猫型のバッグハンガー。クラファンでは海外からのアクセスもあり、高槻から世界へ向けて発信するアイテムです。

白黒の猫から「mike」、「kuro」とバリエーションも増えています。昨年は、猫ならぬ柴犬バージョンも登場しました。

支援や協力の新しい形

クラウドファンディングの魅力とは？

POINT 1

自宅にいながらにして支援ができる。

クラウドファンディングとは群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語。インターネットを通して応援したい活動や夢、事業に共感したら、ネットで簡単

に支援できるシステムです。支援額も大きなものから少額のものまで幅広いので、自宅にいながらにして、気軽に支援できるのがうれしいですね。



POINT 2

地域とのつながりをつくれる。



今回の特集で紹介しているような、高槻市で行われているクラウドファンディングを支援することで、地域のまちづくりにも貢献できます。ご近所での田植え体験やご

当地酒など、リターン(返礼)によってはよりいっそう地元意識も高まりますし、資金があまりなく困っている地域の団体、活動、施設への支援もできます。

POINT 3

リターンも魅力的。

応援したくなる事業や活動、商品の場合、クラウドファンディングならではのリターンもあります。P5の「nyanger」のように、まだ発売前の商品をいち早く手に入れるこ

とができたり、P7で紹介している、高槻に移転して新しくできる関西将棋会館では、寄付をすることで、会館の銘板に自分の名前を刻むことができます。



たかつきぐらし vol.2: 尊い推しをピンチから救い出せ!



江戸時代に武家屋敷が広がっていた高槻城三の丸跡から発掘された将棋の駒。



待ち遠しい!

全国の将棋ファンが注目の

関西将棋会館のクラウドファンディング

ID 004351



将棋「西の聖地」が高槻へ。一大プロジェクトでクラファン。

今年の12月末まで実施されている、ふるさと納税型のクラファンは高槻市としては初めてのチャレンジ。「クラファンは新たな一手。すばらしい会館が高槻市に来るということを知ってもらい、日本の文化としての将棋をもっと広めていきたい」と木下さん。



高槻市将棋のまち推進課 木下友哉さん



(写真上) 昨年、関西将棋会館移転の覚書を交わした演田市長と日本将棋連盟の佐藤会長。(写真下) 山水館で行われた王将戦。

関西将棋会館

令和5年度中にJR高槻駅西口すぐの場所に完成予定。西日本の将棋文化の総本山として、プロの棋士による対局はもちろん、一般の人にも訪れることができます。

8月に新たに運行したラッピングバス。



Instagram高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」9月号特集のこぼれ話を配信中!